

平成23年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成23年2月18日）

（代表・一般） 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答弁者
<p>4. 県立高校の再編について</p> <p>(1) 鶴舞桜が丘高校では、無理な学校統廃合のために、授業時間を削っているが、県教育委員会ではどう考えているのか。</p> <p>（再質問） 授業時間が削られている実態について、どのように県教育委員会は認識しているのか。</p>	<p>1 鶴舞商業高校と市原園芸高校の統合は、鶴舞地区周辺の中学校卒業生数の著しい減少を受け、学校の活力を維持し、魅力ある教育を展開するとともに、この地区に商業と農業の学びの場を確保するために行ったものです。</p> <p>2 鶴舞桜が丘高校の生徒が、農業実習を行う場合には、旧市原園芸高校施設を使用するため、週2回から3回、10分程度の時間をかけバスで移動しておりますが、同校では、2時限連続して実施することで、移動の回数を減らす一方、移動の時間も有効に活用して実習ガイダンスを行うなどの工夫もしており、必要な授業時間は確保されているものと考えております。</p> <p>1 農業実習地が、校地に隣接していない学校では、校舎から離れた実習地に移動して、充実した実習を行っているところです。</p> <p>2 同校では、10分程度の移動時間がかかるので、正規の授業時間にかかりますが、事前事後の実習ガイダンスを移動時間を有効に活用して、支障がないように行っています。</p> <p>3 大前提として、子供たちがより多様な人間関係の中で、いろいろな発想を豊かにしながら勉強していくためには、一定の学校規模が必要であることから統合をしているということとの兼ね合いで、充実した農業実習のためには、ある程度の条件設定を行っていることを、ご理解いただければと思っております。</p> <p>今後とも充実した魅力ある高校づくりができるように努力してまいります。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p> <p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成23年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成23年2月18日）

（代表・一般） 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答弁者
<p>4. 県立高校の再編について</p> <p>(2) 館山総合高校では、生徒会活動をも阻害する状況を生み出しているが、どう認識しているのか。</p>	<p>1. 館山総合高校は、館山高校と安房水産高校を統合し、複数の職業系専門学科を併置する総合技術高校として設置されました。</p> <p>その結果、相互に連携した学びをとおして専門教育に深みと幅が生まれ、特別活動や部活動においても参加が増えるなど、教育活動の活性化が図られております。</p> <p>2. 海洋科の生徒は、週1日から3日、水産校舎で授業を受けることとなりますが、生徒会活動につきましては、本校舎に登校する日を中心に支障なく行われており、文化祭や体育祭など学校行事の企画や運営を通じて、今まで接することのなかった生徒の間に、新たな交流が生まれるとともに、多くの生徒が参画して、より充実した活動が行われております。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成23年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成23年2月18日）

（代表・一般） 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答弁者
<p>4. 県立高校の再編について (3) 鶴舞桜が丘高校と館山総合高校の両校については、校舎も残されているのだから、分離して元に戻すよう決断すべきだがどうか。</p>	<p>1 生徒数の大幅な減少によって、学校が適正規模を下回ることになると、生徒の科目選択が狭まったり、学校行事や部活動の円滑な運営を妨げるなど、充実した学校生活を送る上で困難が生じることから、その活性化を図るために統合を行ってきたところです。</p> <p>2 例えば、館山総合高校では、総合技術高校の特徴を生かし、家政科と海洋科が合同で調理教室を行い、調理・加工技術の向上を図ったり、海洋科と商業科が協力して新商品の企画・製造を行うなど、異なる学科が連携し、生徒が、地域の水産資源を生かしながら、生産・加工・販売を一貫して学ぶ多彩な教育活動が展開されています。</p> <p>3 県教育委員会といたしましては、今後とも、こうした統合の成果を生かし、生徒が生き生きと学校生活を送れる、魅力ある高等学校づくりに努めてまいります。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成23年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成23年2月18日）

（代表・一般） 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>4. 県立高校の再編について (4) 都市部では今後10年間は中学校卒業生数は減らないので、新たな高校減らしはやめるべきだがどうか。</p>	<p>1 県教育委員会では、中学校卒業生数の減少、生徒の興味・関心や進路希望の多様化等に対応するため、平成14年に策定した県立高等学校再編計画に基づき、平成23年度を目途に統合など学校規模や配置の適正化を行ってきたところです。</p> <p>2 中学校卒業生数は、今後、都市部では、平成28年度まで増加し、その後減少していくことが、また、郡部では、引き続き減少していくことが見込まれています。</p> <p>3 このため、昨年5月に設置した「県立学校改革推進プラン策定懇談会」において、本県の多様な地域性に応じた学校の在り方についても、ご意見を伺っているところであり、今後、この懇談会での議論をもとに、長期的な展望に立って、検討してまいります。</p>	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>

平成23年2月定例県議会（本会議）における答弁要旨

（質問日：平成23年2月18日）

（代表・一般） 部（局・庁）・課（室）名 教育庁企画管理部県立学校改革推進課
 質問者 共産党 丸山 慎一 議員

質問要旨	答 弁 要 旨	答 弁 者
<p>4. 県立高校の再編について (5) 高校は統廃合ではなく、小規模校の利点を生かせるようにすべきだがどうか。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 県立高校の統合は、学校の活力の維持や、柔軟な教育課程の編成による選択幅の拡大など、多様で効果的な教育を展開し、生徒にとって一層魅力ある高等学校づくりを目指して行うものです。 2 このため、県教育委員会では、1校当たりの適正規模を、原則1学年4から8学級、都市部においては、6から8学級とし、学校規模や配置の適正化に努めているところです。 3 その上で、多様な生徒に対応するきめ細かな学習指導を行うために、各学校では、生徒の状況に応じて、習熟度別学習や少人数指導なども実施しているところです。 	<p>教育長 鬼澤 佳弘</p>